



① 10時~12時10分

# 純愛物語

江原真二郎 中原ひとみ 岡田英次  
木村功 田中邦衛 東野英治郎

# 2月21日(日)

藤市民会館 大ホール  
☎048-445-7660

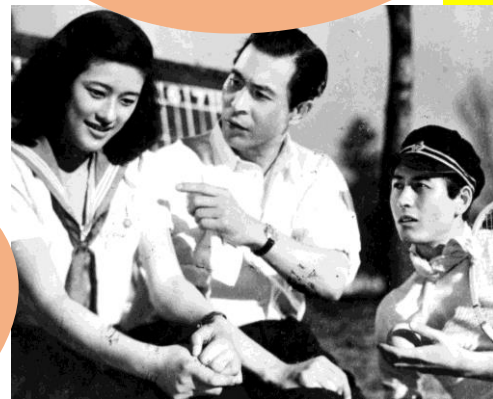
前売り券 500円 4作品鑑賞可  
当日券 500円 1作品ごと



② 13時~15時52分

# 青い山脈

原節子 杉葉子 木暮実千代  
池部良 若山セツ子 伊豆肇



# 今井正

監督作品

# 一挙上映!

③ 16時10分~17時59分

# また逢う日まで

岡田英次 久我美子 杉村春子 滝沢修  
芥川比呂志 河野秋武 風見章子



④ 18時20分~20時24分(終了)

# 真昼の暗黒

草薙幸二郎 松山照夫 矢野宣 左幸子  
内藤武敏 山村聰 北林谷栄 殿山泰司

美味しい! 旨い! 上手い!

藤市民会館 大ホール

美味い! 旨い! 上手い!

藤市民会館 大ホール

PCサイト <http://warabi.net>

当日から15日間  
入場券・半券で  
指定店にて10%オフ

1957年 東映映画

# 純愛物語

午前 10時~12時10分

脚本 水木洋子  
監督 今井正  
撮影 中尾駿一郎  
音楽 大木正夫

## 出演者

江原真二郎 中原ひとみ

岡田英次 東野英治郎

木村功 長岡輝子 神田隆 北沢彪 中村是好 田中邦衛

(カラー シネマスコープ 130分)

前作『米』(1957)の好成績を得て、東映が再び今井監督と組んだ戦後青春映画の代表作。1954年3月に第五福竜丸がビキニ環礁で死の灰を浴び、改めて原水爆問題がコース・アップされていた。脚本の水木洋子によれば、この作品は『また逢う日まで』(1950)の姉妹篇として「戦後と青春」を描こうとするものであった。焼け跡の中を懸命に生きる不良少年と少女の純愛物語に、原爆後遺症の問題が絡んでくるのも、このような社会的背景を抜きにしては考えられまい。中原ひとみの鼻から、流れ落ちる一筋の血が伝えるものは、たしかに原爆への怒りである。だが、それは今井監督の静かな演出によって、より深々とした印象を与えるものになっている。常に周りの状況に押しつぶされそうになりながら、必死の抵抗を続ける恋人たちの姿は、この監督の作品に一貫する重要なモチーフである。



1950年 東宝

# また逢う日まで

16時10分~17時59分

脚本 水木洋子 八住利雄  
監督 今井正  
撮影 中尾駿一郎  
音楽 大木正夫  
美術 河東安英

## 出演者

岡田英次 久我美子

滝沢修 河野秋武

風見章子 杉村春子 林孝一 芥川比呂志 大泉滉

近藤宏 南美江

(白黒 スタンダード 109分)

ロマン・ロランの「ピエールとリュイス」をもとに映画化することを今井監督に勧めたのは主役を演じた岡田英次とのものである。脚本は当時新進の水木洋子とベテランの八住利雄。回想とナレーションを巧みに用いつつ、甘口のメロドラマにおちいりやすい題材を、青春の悲劇として見事に立体化してみせた。戦時下の防空壕で偶然出会った青年と少女のはかない物語だが、有名な「ガラス越しの接吻」は閉塞状況におかれた恋人たちの精神性を象徴して世代を超えて今日でも十分納得出来る。今井監督の主人公たちをとらえる静かな視線が、この作品を声高な反戦映画ではなく、内面的な格調の高いものに仕上げている。

キネマ旬報ベストテン第1位。



1949年 藤本プロ=東宝

# 青い山脈

午後 13時~15時52分

原作 石坂洋次郎  
脚色 井手俊郎  
脚色・監督 今井正  
撮影 中井朝一  
音楽 服部良一  
美術 松山崇

## 出演者

原節子 杉葉子

木暮実千代 池部良

伊豆肇 竜崎一郎 若山セツ子 三島雅夫 藤原釜足

(白黒 スタンダード 172分)

戦後間もない時期に人々に民主主義や男女平等を教えたといつていい記念碑的大ヒット作品。主題歌「青い山脈」は今も歌い継がれている。いたずらの「恋文」が思わぬ事件になり、封建的な地方の小都市は大騒ぎ。戦後民主主義の理念であった自由恋愛や、女性の自立・解放が、明朗で快活なユーモアのうちに描かれている。原節子の理想に燃える女教師、杉葉子の伸びやかな女子生徒、木暮実千代の地方ボスに反逆する芸者は新時代の到来を告げる人物である。その後5回映画化。キネマ旬報ベストテン第2位。



1956年 現代ぷろだくしょん

# 真昼の暗黒

18時20分~20時24分 映画会終了

原作 正木ひろし 脚本 橋本忍  
監督 今井正 音楽 伊福部昭

## 出演者

草薙幸二郎 松山照夫 矢野宣

左幸子 殿山泰司 内藤武敏

山村聰 飯田蝶子 北林谷栄

(白黒 スタンダード 124分)

1951年に山口県で起きた強盗殺人事件「八海(やかい)事件」を題材に、無実の罪を着せられた四人の若者たちの悲劇と、彼等の無実を信じる弁護士の奮闘を描いた社会派ドラマ。封切られた当時は、高裁で有罪を告げられた四人の若者が最高裁へ上告していた時期であったが、今井正は、脚本家の橋本忍と事件に関する綿密な調査を重ねた末に、四人が無罪であるというシナリオで映画化に臨んだ。今井正の回想によると、脚本が完成した段階で、最高裁から製作中止の圧力がかけられたという。しかし今井は、「万が一、今後四人が有罪になったら監督を辞めよう」という強い信念のもとで、完成にこぎつけた。実際、封切から12年後の1968年に、四人の無罪が正式に確定し、冤罪が証明されたのである。キネマ旬報日本映画ベストテン第1位。



前売り券・取扱所・車貴仙 (中央) 431-5631 間口商店 (塚越) 442-0867 萬寿屋(北町)431-2438 魚亀(錦町)443-6830  
根岸クリーニング(南町)442-4910 塚越 石川 441-5496 中野 442-9991 北町 米田 443-2763  
中央 木原 445-4023 小宮 432-5404 錦町 尾崎 443-8018 南町 高松 443-3011 勝島 443-0819  
全域 中西 03-5615-1056 日種 267-0691 仲内 444-3176 お得な前売り券を、早めにお求めください。